

## 令和2年度 篠ノ井高校(全日制) 学校評価表

## 22 篠ノ井高等学校(全日制)

教育目標	①真理と学問を愛し、高い知性と豊かな教養を身につけた人の育成	中期目標	①自主性・責任感を育てる
	②進歩と向上を信じ、小成に甘んげず、絶えず理想をめざす人の育成		②授業を中心にして学力の伸長を図る
	③精神と身体を鍛え、明朗で積極性のある人の育成		③進路目標を明確にさせ、その実現を図る
	④自主と自律を尊び、常に計画性を持ち、節度のある人の育成		④クラブ活動、委員会活動の充実を図る
	⑤勤労と責任を重んじ、堅実にして協調性のある人の育成		⑤様々な活動を通して、生徒のより豊かな心と人間性を育てる

評価項目(重点目標)	評価の観点	評価の材料	評価	評価 A・B・C
①いじめ・体罰のない安心・安全な学校づくりの推進	① いじめ・体罰の早期発見、早期対応ができたか。	・いじめアンケートの実施と組織での対応	5月、12月、2月に学校生活アンケートを実施した。2回目のアンケートが遅れてしまった。コロナ禍において進路に対して悩みを抱えている生徒が多かった。早急に対処しなければならない事案は多くなかったが、担任・学年と連絡を取り迅速に対応できた。	A
	② 人権意識の高揚に努めたか。	・人権教育映画鑑賞、職員人権研修会の開催	9月9日に職員を対象とした人権教育の研修会を行った。講師に食旅☆長野代表 吉澤 茜先生をお招きし、「食を通しての異文化理解と多文化共生」についてお話をいただいた。11月10日に全校生徒を対象の人権教育を行った。長野県国際課の国際交流員を講師とし、演会(全体会)・討論会形式(分科会)をZOOMを利用して行った。「第2回南長野ブロック学校人権教育連絡協議会」の公開授業を兼ねた。	A
	③ 生徒一人ひとりの情報を共有し、組織的な対応ができたか。	・生徒個々に対する支援計画、支援会議の開催 ・情報の共有	支援計画の立案・支援会議を開催し、教科担当者会議にて、誰が何を支援するのかを明確に出来た。情報共有に関しては、毎週相談係会を開く等で共有に努めている。	A
	④ 交通安全の徹底、特に、自転車事故減少に努めたか。	・交通安全指導、交通事故件数の経年比較	コロナウィルス感染拡大防止のための休校により例年年度当初に行っている交通安全教室を実施することができなかつた。残念ながら自転車事故により命を落としてしまった生徒も出でましたが、全体とすると自転車事故の件数は昨年よりも減少した。生徒指導通信で何度も自転車通学のマナーや交通事故に遭った場合の対処法を喚起した。	B
②健康で健全な基本的生活習慣の確立の支援	⑤ 生徒の生活習慣の把握に努め、その結果を職員で共有し、個々の生徒の支援を行ったか。	・学習実態調査の実施、 ・面談の定期的な実施	1・2年は年2回(4・8月)、3年は4月に学びの基礎診断としてスタディーサポートを実施し、学習に対する意識やや学習力傾向を把握した。その結果に基づいて、クラス担任が面談を行い生徒個々の学習に対する指導に役立てることができた。校内の調査は1月に実施した。	A
	⑥ スマホ利用に対し、適切な指導ができたか。	・スマホ使用規定作成、徹底 ・研修等の実施 ・保護者の意識醸成	1年生は入学時にスマホ使用の注意点の講話を専門家を招いて行った。またスマホのトラブルを未然に防止すべく生徒指導係としても講演を行った。使用に関しては全校としてルールはあるが徹底はされていない。問題行動には100%の確立でSNSが絡んでいるので正しいスマホの使い方を日常頃より指導している必要がある。Wi-Fi環境下でのスマホを使った授業が増加した際のスマホの管理についてだが、現在のところ以前のルールを改正するほど授業形態に変化はないように思う。	B
	⑦ 家庭学習時間の確保に努めたか。	・学習実態調査結果の分析 ・改善に向けての検討 ・教科課題の精選	・各調査から家庭学習の不足を把握し、進路講演会等をリモートで行うなど、学習に対する意識と具体的な学習計画について指導することができた。	B
③「主体的・対話的で深い学び」の実践と進路指導の充実	⑧ 自主的・探究的に学ぶ姿勢の育成に努めたか。 ・「主権者教育」「信州学」を有効に取り入れたか。	・「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・インターンシップや進路行事への参加状況 ・探究学習の取り組み状況、探究的行事への参加状況	・「地域との協働(地域魅力型)」事業特例校、「WWLコンソーシアム」(連携校)どちらも文部科学省事業に選定され、他校との連携や校内ではカリキュラムの研究等をすすめ、リモート会議を通じて全国の取り組みを研修した。 ・コロナ禍でフィールドワークが思うように実施できない期間があったが、課題を見つけ、探究し、考えを発信するプロセスを大切に取り組んだ。1学年は、千曲川をテーマに探究学習を行い、千曲川沿線(飯山から小諸)でフィールドワークを実施した。2学年は、SDGsについて学び、SDGsに係るカードゲームを通して探究学習を行った。 ・就業体験や看護体験等インターンシップも本年度はコロナ禍で例年通りに実施できなかつたが、看護体験は須坂新生病院から講師を招聘し校内で自前の看護体験を実施するなど工夫して取り組んだ。 ・大学見学ツアーも実施できなかつたため、オンライン参加の取り組みに切り替えて実施した。 ・外部機関主催の「生徒の主体性を育むオンライン交流会」「県議会議員との意見交換会(オンライン)」等に自主的に参加し、他校生と交流を図りながら、探究する資質能力を身に付けることができた。	B
	⑨ 職員の研修、スキルアップに努めたか。	・校内授業研修 ・職員進路研修会 ・研修会への参加	・8月小論文指導研修では生徒、職員がオンラインで研修。ICTに係るZOOM、GoogleClassroom、ロイロノート等の研修会は休校中やその後も例年以上に実施した。これからの篠ノ井高校の在り方にについても、グループワーク形式で研修、議論した。また、わいせつ、新教育課程、評議に関する研修会を実施し意識の高揚に努めた。	A
	⑩ 高大接続改革に向けて必要な資質・能力を身につけさせることができたか。	・高大接続改革の研究・新テストへの対応状況 ・大学出前講座等の利用、大学に関する情報の提供 ・英語4技能化への対応	・総合的な探究の時間において、地域探究をテーマに篠ノ井地域をはじめ北信地方を中心に学習を深めた。 ・共通テストへの対応は、これまでのセンター試験同様に授業や補充授業の中で扱うことができた。 ・大学へ出向いたり、招いて講座を持つことは今年度の状況下ではできなかつたが、オンラインによる説明会や少人数での県内大学の説明会は開催できた。 ・英語民間試験の導入とe-portfolioの導入が見送られ、対応に苦慮した。しかし、英語検定やGTECは入学後にもつながることであり、例年通り実施した。次年度も継続する。	A
	⑪ 進路指導方針を共有し教科間連携による効果的な学習指導ができたか。	・補習計画の立案、参加状況 ・センター試験受験者数の経年比較・授業アンケート ・大学合格状況、特進クラス合格状況	・各学年とも、平日の朝・放課後、懇談会の午後、夏季休業中などをを利用して補習授業に取り組んだ。内容について、生徒に明示し見通しを持った補習授業を行うことが重要である。 ・特に3年生は共通テストへの移行もあり、英語リスニングの比重も高くなりまた、思考力・判断力を求める出題への対応も含め、大学入試への取り組みを積極的に行うことができた。	B
④クラブ活動・生徒会活動の充実	⑫ 自主性と協調性を育てるクラブ活動・生徒会活動の支援ができたか。	・クラブ顧問会での情報交換・文化祭への取り組み状況 ・あいさつ運動参加等、地域との交流状況	・コロナ禍のため、文化祭その他の生徒会活動は、軒並み中止せざるを得なかつた。文化祭に関しては、代替イベントの「しのフェス」を企画した。クラスマッチなど後夜祭を合体させた形態の行事が開催でき、生徒達には好評だった。 ・対地域との交流活動も自粛を余儀なくされ、ほとんどできなかつた。そんな中、ウェルシアとの協同で進めていた「しのカフェ」は、計画から2年ぶりに実を結び、今年度、写真部・美術部・文芸部が続けざまに展示発表会を催し、他の文化系クラブも今後の企画があるので、企業側と連携を取り、継承して行きたいと考えている。このような状況だったので、宣伝や触れ合い活動などできなかつたのは、残念である。	C
	⑬ 部活動と学業の両立を支援できたか。	・クラブ指導のあり方	・部活動は、県や連盟等から出される「感染症予防対策」に則って活動せざるを得なかつたので、通常よりかなり制限された部活動になった。そのような中でも、各クラブの所属団体ができる範囲で模索し、代替の大会やイベント等行われたところもあった。	C
⑤開かれた学校づくり	⑭ 地域への情報発信に努め、地域行事への参加や地域人材の活用を推進したか	・地域行事への参加、地域人材の活用状況 ・小中学校の公開授業への参加状況、中学校への説明会実施	・教頭が中学校進路講話に出向き本校のPRを行った(6中学校訪問)。また、中高の会議等で本校の取り組みや次年度入学生に対しての改革、特進クラスについての積極的なPRを行った。中学3年生対象の公開授業を秋に1回実施した。 ・探究的学びを充実させるため、八十二文化財団等と積極的に懇談した。 ・Webページにて活動状況を報告した。 ・運動部は近隣の用水・側溝清掃を実施、今後は雪かきにも協力する予定。生徒会はボランティアへの参加を積極的に行った。 ・例年は文化部も多くの地域行事に参加し地域との交流に努めたが、今年度はコロナ禍のため参加がかなわなかつた。PTA役員を中心とした地域行事の巡回や、生徒会PTA主催の篠竹カフェも実施することができなかつた。	B